

いつもの暮らしに、がん検診を



大切なあなたと家族のために受診しましょう

●●●●●問合せ：健康づくり推進課成人保健係 ☎757-9764

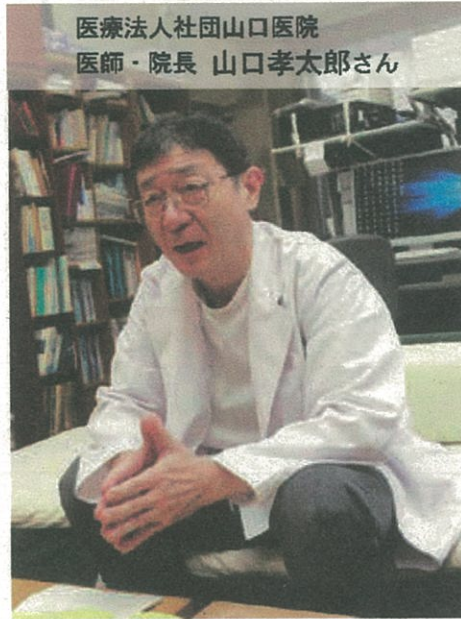
市民の死亡原因の第1位はがんであり、特に肺がん・胃がん・大腸がんで亡くなる人が多い傾向です。しかしそんな状況でありながら、がん検診の受診率は低い現状にあります。今回は、山口孝太郎医師のインタビューを交えながら、がん検診の大切さをお伝えします。

胃がんとピロリ菌

最 近の研究で、胃がんに
かかった人のほとんど
が、胃の中にピロリ菌がいた
ことがわかってきました。そ
してピロリ菌を退治すると、
胃がん発生の危険性が大幅に
減ることもわかってきました。

すことがありますが、多くは
少しずつ胃炎が進むだけで、
症状がないままに経過しま
す。そのため、自分でピロリ
菌に感染しているかわかりま
せん。
市は平成28年度からピロリ
菌抗体検査を実施しています
(詳しくは7ページ)。自分の

きても、胃がんにかかる危険
性はゼロにはなりません。で
すので、胃がん検診を受ける
ことが大切です。胃がんの発
見には胃のバリウム検診や内
視鏡(胃カメラ) 検診が有効
です。市内では5月から胃の
バリウム検診が始まります。



医療法人社団山口医院
医師・院長 山口孝太郎さん

検診を受けて がんに負けない人生を

症状がなくても がん検診受診を

ピ ロリ菌は子どものこ
ろ、多くは6歳まで、
遅くとも10歳までに胃の中に
住み着くと考えられていま
す。ピロリ菌に感染すると、
胃や十二指腸の潰瘍を繰り返し

胃の中にピロリ菌がいるか知
ることは、とても重要です。
大人になってピロリ菌を退
治してきれいな胃になると、
そのあとにピロリ菌が口か
ら入ってもすぐに排除され、
めつたに持続感染は起こらな
いと考えられています。
ただし、ピロリ菌を退治で

精密検査は 『必ず』受けましょう

胃 のバリウム検診やピロ
リ菌抗体検査の結果、
精密検査が必要となった人
には、胃カメラの検査を行いま
す。嫌がる人もいますが、昔
と違い、今はカメラが細くな
り、えずいて大変な人は鼻か
ら挿入するなど、さまざま
工夫で楽に受けられるよう
になりました。

胃がんは、早期に発見すれ
ば、死に至ることが少ない病
気となりました。市民の皆さ
んからは、積極的に検診を受
けていただいで、がんや病
気に負けない人生を実現して
もらいたいです。

5月31日は世界禁煙デー・
5月31日から6月6日は禁煙週間

【受動喫煙のない社会をめざして】

受動喫煙が健康に悪影響を及ぼすことは科学的に明らかとなっ
て、心筋梗塞や脳卒中、肺がんに加え、子どもの喘息や乳幼児突然死
症候群などのリスクを高めることがわかっています。たばこの煙がど
んな健康被害をもたらすのかを知り、禁煙にチャレンジしましょう。



禁煙ロゴマーク